

第422回（令和2年6月）

小野市議会(定例会)発言通告書

議会事務局

一般質問発言通告書

1 岡嶋 正昭 議員

質問項目

第1項目 新型コロナウイルス対策支援について

要点・要旨

第1項目 新型コロナウイルス対策支援について

この度の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策において市民生活に多くの制約がかかっているところです。これらの制約に対し、小野市では他市に先駆けていち早く上水道料金の無料化を実施し、半年間にわたり総額約3億5,000万円分の支援をしているところであります。しかしながら、まだ先の見えない不安定な情勢のなかで、これからの市民に対する支援策について次の3点をお伺いします。

(1点目) 新型コロナウイルス対策に係る財政への影響について 答弁者 総務部長

この度の新型コロナウイルス対策に対して、小野市では、いち早く令和2年度予算の再編に取り組み、5月の臨時会における令和2年度小野市一般会計補正予算(第2号)に続き、先般、令和2年度小野市一般会計補正予算(第3号)が成立したところです。

これらにより、小野市においては新型コロナウイルス対策として総額63億円、うち市費11億円もの補正予算が組まれたわけではありますが、市民生活への多大な影響等を鑑みれば迅速な対応がとられたことに大変心強く感じております。しかし一方で、これだけの予算規模ともなりますと、市の財政への影響等、心配な面も出てまいります。第2波、第3波等により対応が長期に及びますと更に財政への影響も深刻化してまいります。今回の新型コロナウイルス対応に関し財政的な影響をどのように考えておられる

のかお伺いします。

(2点目) 新型コロナウイルス感染症に係る医療従事者等への支援について

答弁者 市民福祉部長

医療従事者、介護従事者、保育従事者などは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による非常事態宣言を受け、不要不急下での行動自粛を余儀なくされている中においても休むことなく対応を求められ、市民のために日夜活躍されています。これらの方々の職場の環境整備等（マスク、医療用エプロン、フェースシールド等の充実）への支援が必要なのではないかと思います。当局の考えをお伺いします。

(3点目) 風評被害への対応及び対策について

答弁者 市民安全部長

今回の新型コロナウイルス感染症において、小野市では当初北播磨総合医療センターにおいて医師、看護師に陽性反応が検出されたことにより、陽性反応者やその家族等への風評被害を及ぼしたような事案が発生したことは、非常に悲しい出来事でありました。これはあってはならない事象だと思います。

今後、第2波、第3波が来る可能性のある中で、同じようなことが起こらないためにも、風評被害への対応と対策は重要なものだと考えますが、「小野市いじめ等防止条例」を制定している小野市においてはどのように考えておられるのかお伺いします。

一般質問発言通告書

2 久後 淳司 議員

質問項目

第1項目 新型コロナウイルス対策支援について

要点・要旨

第1項目 新型コロナウイルス対策支援について

新型コロナウイルスは、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく国の緊急事態宣言を受け感染拡大防止に向けた行動制限や企業等における経済活動の自粛により、ようやく感染者数が減少傾向になって参りました。そんな中、5月21日に兵庫県も緊急事態宣言が解除となりましたが、最も重要なことはウイルスは存在しているという点であり、社会経済活動を再開すれば、再度感染者数が増加する可能性があります。しかし地域ごとの特性もあり、何より社会経済活動を停滞させたままでは市民の方々の生活を維持することが困難になります。そこで、小野市民の安心・安全を担う行政として、様々な支援を行うことが必要になると考えますので、次の2点についてお伺いします。

(1点目) 自宅待機中の高齢者への支援について

答弁者 市民福祉部参事

自粛要請に伴い高齢者の方々においても在宅時間が長くなっています。コミュニティの場の喪失など、在宅が増えることで、孤独感とともに気持ちや体力面での衰えが進んでしまう可能性があります。介護予防の観点からも、限られた状況の中でのフレイル予防の推進・啓発が必要になるかと考えますが、例えば個人の取組による体力づくりなど、ストレス対策も含め当局の考えをお伺いします。

(2点目) 災害が起きた際の避難所対策や支援について

答弁者 防災監

新型コロナウイルスによるクラスターのリスクや、第2波を出来る限り避けるため、3つの密（密閉・密集・密接）を避ける意識を継続することが重要です。万一、現状において大雨による増水や、地震等の自然災害が起きた場合には、どのような対策や支援を考えておられるのかお伺いします。

一般質問発言通告書

3 村本 洋子 議員

質問項目

第1項目 小中学校の夏休みの短縮について

第2項目 今後の学校行事について

要点・要旨

第1項目 小中学校の夏休みの短縮について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴った休校措置で学習への影響に鑑み、夏休みをお盆期間のみとし、学校現場と市が一体となって授業日数不足や学習に対する不安感を解消する取り組みが発表されました。

既に全教室に空調設備は完備されており、現在設置されていない体育館等にも大型扇風機やスポットクーラーなどの設置や、下校時のスクールバスの運行により真夏における安全を確保されると伺っております。そこで次の2点についてお伺いします。

(1点目) 教室の換気について

答弁者 教育指導部長

近年猛暑が続いており、冷房運転中での密閉対策のための換気をどのように行っていくのかお伺いします。

(2点目) 体育の授業について

答弁者 教育指導部長

猛暑の中での体育授業の実施や、マスク着用の体育授業について当局の考えをお伺いします。

第2項目 今後の学校行事について

答弁者 教育指導部長

修学旅行、自然体験、文化芸術体験等は、とても重要な学習だと思います。しかし、「密閉、密集、密接」の3密を回避するのは非常に難しいと思われます。今後の学校行事に関して、実施の方向性や考え方についてお伺いします。

一般質問発言通告書

4 藤原 章 議員

質問項目

第1項目 コロナ禍における生活弱者・社会的弱者への支援について

要点・要旨

第1項目 コロナ禍における生活弱者・社会的弱者への支援について

5月21日に兵庫県の緊急事態宣言が解除されましたが、社会生活にも経済活動にも甚大な影響を与え続けています。とりわけ深刻な打撃を受けるのは日ごろからつましい生活を余儀なくされている生活弱者・社会的弱者と言われる人達ではないかと思えます。私は新型コロナで、こうした人達の生活を破綻させてはいけない、厳しい中でも安心して暮らしていただきたいと思えますし、市民の暮らしを守るのは地方自治体の本来の仕事だと思えますので、特に気になっておりますひとり親・シングルマザーと障がい者への支援について次の2点をお伺いします。

(1点目) ひとり親・児童扶養手当受給世帯への支援について

答弁者 市民福祉部長

ひとり親、とりわけシングルマザーは貧困率が50%以上、貧困線の半分に満たない「ディーププア」が13%と言われ、経済的に大変厳しい状況に置かれている家庭が多いのが実情です。収入が少ない原因は、子育ての関係もあって正規社員として勤めることが難しく、非正規やパートが多いことが一つの要因と考えられますが、非正規やパートが多いだけに、現在のコロナ禍の中で仕事を失ったり、収入が減ってしまった人があるのではないかと心配します。私はこうした人達に少しでも安心して暮らしていただく

ために、ひとり親に支援金を給付するべきだと考えていました。うれしいことに今回の国の第2次補正予算では「ひとり親世帯臨時特別給付金事業」が生まれ、市の補正予算も先般成立したところです。しかし、今回のこの国のひとり親に対する支援制度では、児童扶養手当受給の所得水準が基準とされています。この児童扶養手当受給の所得水準は、子ども1人の場合は所得が230万円、子ども2人の場合は、268万円とまだまだ低いと感じています。小野市の場合は、独自施策として「就学援助世帯特別支援金給付事業」があり、国の施策よりは幅広く対応していただいています。しかし、今回のコロナ禍の影響というのは、多くの方々に影響を及ぼし、また、長期化する可能性がありますので、これらの制度から漏れ落ちる方がないように、ひとり親全世帯に対する独自の支援を行っていただきたいと考えますが、当局の考えをお伺いします。

(2点目) 障がい者及び就労継続支援事業所への支援について

答弁者 市民福祉部長

障がい者の皆さんはさまざまな困難の中で頑張っておられるわけですが、マスコミ等の報道を見ましても、新型コロナに関連する障がい者への特別な支援策は、あまり耳にしません。障がい者やその世帯には国や自治体からどんな支援が行われているのかお伺いします。

また、障がい者の皆さんが通う就労継続支援事業所はコロナ禍のもとで仕事が減ったり、作業ができないなど困難を抱えておられると思います。通所しておられる皆さんの給料面や、事業所の運営面における現状及び国の第2次補正予算では「就労系障害福祉サービス等の機能強化事業」として、就労継続支援事業所や通所者に対する支援予算が組まれています。その具体的内容をお伺いします。